

令和6年度

「運営に関する計画」

（総括シート含む）

大阪市立依羅小学校

令和7年3月

(様式1)

大阪市立依羅小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校では、人権教育を基盤とし、児童一人一人に寄り添いながら教育活動を進めている。また、家庭との連携を密にとりながら、家庭背景を知り、保護者の思いに寄り添うことも大切にしている。

令和4年度より、大阪市教育振興基本計画が改訂されたことに伴い、本校では3つの最重要目標の達成に向けた校内組織を編成している。本市教育施策と本校の取組が連動し、PDCAサイクルを確立することができるよう取り組んでいる。

そこで、学校教育目標である「互いを認め合い、未来に向かってともに伸びようとする子の育成」に引き続き取り組むとともに

- ①自分や他の人を大切にする子
- ②すすんで学ぼうとする子
- ③自ら考え判断し行動する子

という3つのめざす児童像に向かって、取組を進めていく。

令和5年度の全国学力・学習状況調査の結果では、各教科で大阪府平均に迫る結果となり、「学力向上支援チーム事業の重点支援校」としての取組の成果が表れている。

【令和5年度全国学力・学習状況調査 平均正答率】

| | 本校 | 大阪府 | 全国 |
|----|-----|-----|-------|
| 国語 | 65% | 66% | 67.2% |
| 算数 | 59% | 62% | 62.5% |

本校では、令和4年度より「学力向上支援チーム事業の重点支援校」として、あらゆる方策を用いて、学力向上に向けた取組を進めている。学力向上に向けた取組の基盤となるのは、児童の生活リズムの確立や登校支援であると考えている。本校では、遅刻や欠席をする児童が多く見られる。また、登校してからも学習に集中できず、学習規律の定着に至っていないことも課題である。そのため、児童や家庭と信頼関係を築き、児童がよりよい学校生活を送ることができるよう、学校と家庭がともに考えていくことができるようにしなければならない。

また令和4年度より、「学校いじめ防止基本方針」の見直しを中心に、いじめ対策の取組を重点的に進めている。学校として、いじめ事案にどのように取り組んでいくのかを、教職員全体で話し合い、具体的な取組方法や組織の在り方について、よりよい方法を模索している。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○令和7年度までに、小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を95%以上にする。(令和4年度81%)

○令和7年度までの学校アンケートにおいて、学校で認知したいじめの解消した割合について、100%を維持する。

○毎年度末の学校アンケートにおいて、不登校の児童の割合を、毎年、前年度より減少させる。

○令和 7 年度までに、小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合について 90%以上を維持する。(令和 4 年度 78%)

○令和 7 年度までに、小学校学力経年調査や学校アンケートにおける「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 96%以上にする。(令和 4 年度 93%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和 7 年度までの小学校学力経年調査における正答率 7 割に満たない児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も 30%以下にする。

○令和 7 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も 30%以上にする。

小学校学力経年調査（令和 4 年度）

（ ）内は令和 3 年度

| 4・5 教科 | 7 割未満 (%) | 2 割以上 (%) |
|--------|-------------|-------------|
| 3 年 | 19.8 | 22.2 |
| | | |
| 4 年 | 17.8 (26.6) | 22.2 (18.1) |
| 差 | -8.8 | +4.1 |
| 5 年 | 9.0 (24.4) | 25.6 (32.4) |
| 差 | -13.4 | -6.8 |
| 6 年 | 23.7 (24.7) | 21.1 (23.5) |
| 差 | -1.0 | -2.4 |

○令和 7 年度までに小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 85%以上にする。(令和 4 年度 78%)

○令和 7 年度までに、小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 75%以上にする。(令和 4 年度 70%)

【学びを支える教育環境の充実】

○令和 7 年度までに学校アンケートにおける「ICT 機器を使って、楽しく学習に取り組むことができましたか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 95%以上にする。(令和 4 年度 92%)

○令和 7 年度までに「学校園における働き方改革推進プラン」による教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教員の達成率を、以下に示す通りに維持する。

(令和 4 年度 基準 1 : 29.4% 基準 2 : 85.3%)

- ・基準 1 を満たす教員の割合を 70%以上。
- ・基準 2 を満たす教員の割合を 90%以上。

※基準１：① 1 か月の時間外勤務時間が 45 時間を超えないようにすること

② 1 年間の時間外勤務時間が 360 時間を超えないようにすること

基準２：① 1 年間の時間外勤務時間が 720 時間を超えないようにすること

② 1 か月の時間外勤務時間が 45 時間を超える月を 1 年間に 6 月までとすること

③ 1 か月の時間外勤務時間が 100 時間を超えないようにすること

④ 連続する複数月（2 か月、3 か月、4 か月、5 か月、6 か月）のそれぞれの期間について、時間外勤務時間の 1 か月当たりの平均が 80 時間を超えないようにすること

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

（人権教育）

○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 90%以上にする。（前年度 80%）

○年度末の学校アンケートにおいて、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

（前年度 1.7%）

（学校独自）

○学校アンケートにおける「自分にはよいところや得意にしているものがあると思いますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 93%以上にする。（前年度 92%）

（生活指導）

○小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 95%以上にする。（前年度 94%）

（学校独自）

○学校アンケートにおける「自分から進んであいさつできていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 90%以上にする。（前年度 88%）

○小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 94%以上にする。（前年度 94%）

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

（学力の向上）

○小学校学力経年調査における「学級の友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 45%以上にする。（前年度 41%）

○小学校学力経年調査における国語及び算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 3 ポイント向上させる。

（学校独自）

○学校アンケートにおける「自分から進んで勉強や活動に取り組んでいますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 84%以上にする。（前年度 82%）

（体力の向上）

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）」やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 66%以上にする。（前年度 65%）

(学校独自)

- 保健指導・委員会活動の取組を通して、学校アンケートにおける「手洗いやうがいをしっかりできていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 90%以上にする。(前年度 89%)
- 清掃指導・委員会活動の取組を通して、学校アンケートにおける「きちんとそうじをしていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合において 97%以上を維持する。(前年度 97%)

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 75%以上にする。(ただし、学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く)
 - 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 53%以上にする。(前年度 46%)
- (学校独自)
- 学校アンケートにおける「ICT 機器を使って、楽しい学習に取り組むことができましたか。」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 93%以上にする。(前年度 92%)

3 本年度の自己評価結果の総括

【安心・安全な教育の推進】

(人権教育)

本項目に関する小学校学力経年調査（以下「経年」）や学校アンケート（以下「学校」）の結果は以下の通りである。

- （経年）「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な回答をする児童の割合を 90%以上にする。(前年度 80%) ⇒79%
- 校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。(前年度 1.7%) ⇒7.3% (2学期末時点)
- （学校）「自分にはよいところや得意にしているものがあると思いますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 93%以上にする。(前年度 92%) ⇒91%

今年度は、いじめアンケートの回数を昨年度の 5 回から毎月実施に増やしたことでいじめの早期発見・対応につなげることができた。また、学習者用端末を活用した「心の天気」の入力率も 1 年間で大きく向上した。毎月の児童ごとの集計を見ると、長期休み明けや、ある特定の曜日に不安を抱えている児童など、児童の困り感が浮き彫りになり、児童に声掛けをする一つのきっかけとなった。あくまでもデータだけに頼るのではなく、児童の様子を様々な視点から見手手段の一つとして今後も「心の天気」の活用を進めていく。

しかしその一方で、「いじめは絶対に許されないものだ」と感じている児童の割合が 79.3%で本校で定めた目標 90%を下回っている。「どちらかといえば許されない」と回答する児童を含めても 97%であった。「いじめられる側にもそれなりの理由や原因がある」との意見等、部分的にでもいじめられる側の責に帰す論理は断じて受け入れられない。全教職員がその姿勢を首尾一貫して徹底していく必要がある。

長期欠席児童については、昨年度 33 名から今年度 43 名と増加している。引き続き児童・保護者に寄り添い、取組内容②（1－①）を進めるとともに、関係諸機関との連携、教員研修等に取り組んでいく。

（生活指導）

- （経年）「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 95%以上にする。（前年度：94%）⇒92%
- （学校）「自分から進んであいさつできていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 90%以上にする。（前年度 88%）⇒88%
- （経年）「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 94%以上にする。（前年度 94%）⇒95%

児童会が中心となり学校のきまりを守ったり挨拶を積極的にしたりする啓発活動を行い、各学年からの生活目標と関連づけた取組なども実施したが、前年度に比べて下回るアンケート結果となった。これまで以上に児童が主体的に取り組めるようなしかけづくりを工夫していかなければならない。また、教職員があいさつ等のコミュニケーションを積極的にとり、その姿を児童や地域に示していくことも大切であると考えている。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

（学力の向上）

- （経年）「学級の友達との話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目で最も肯定的な回答をする児童の割合を 45%以上にする。
（前年度 41%）⇒46%
- （経年）「国語及び算数の平均正答率の対大阪市比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 3 ポイント向上させる」
⇒ 4 年国語（－0.3 ポイント） 4 年算数（－2.5 ポイント）
5 年国語（＋2.9 ポイント） 5 年算数（＋4.6 ポイント）
6 年国語（＋1.0 ポイント） 6 年算数（＋9.1 ポイント）
- （学校）「自分から進んで勉強や活動に取り組んでいますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 84%以上にする。（前年度 82%）⇒89%

今年度も、従来取り組んでいた放課後学習（アフタースクール）に加え、5 年生対象に「アフター 2」の取組を行った。大阪市学力向上支援チーム事業による学びコラボレーターを活用し取り組んだ。また、教員の授業力向上を目的とした授業研究や教職員研修などで研鑽を深めたり、学力保障部会で小学校学力経年調査等の分析を丁寧に行い、日々の授業実践に活かしたりしている。これらの取り組みにより、いずれの学年も前年度より 3 ポイント向上には至らなかったが、全体的には向上したと考えられる。さらに、各担任教員の任意ではあるが、「自主学習ノート」による自主学習習慣の定着に関する取組もアンケート結果の向上の一因である。

（体力の向上）

- （経年）「運動（体を動かす遊びを含む）」やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な回答をする児童の割合を 66%以上にする。（前年度 65%）⇒66%
- （学校）「手洗いやうがいをしっかりとできていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 90%以上にする。（前年度 89%）⇒91%
- （学校）「きちんとそうじをしていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 97%以上にする。（前年度 97%）⇒97%

運動に関するアンケート結果は目標を達成することができた。今年度から校内の研究教科を体育科とし、互いに学びあい高めあう授業づくりを行ってきた。授業の中で「分かった」「できた」と感じる児童も多く見られる。運動委員会による運動週間の企画、保健委員会による手洗い・清掃の仕方に関する動画の作成など、児童が主体となって体力の向上、健康面の啓発に努めている。

【学びを支える教育環境の充実】

○（学校）「ＩＣＴ機器を使って、楽しい学習に取り組むことができましたか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 93%以上にする。（前年度 92%）⇒94%

今年度から学習者用端末の持ち帰りを進め、毎日の「心の天気」の入力、連絡帳の確認、デジタルドリル・スタディサプリの活用など、利用頻度を高めた。その結果、基本的な操作が定着し、授業でもパワーポイントの作成、調べ学習など必要に応じて利用できる児童が増えた。

しかし、8割以上の児童が年間授業日の 75%以上学習者用端末を利用する達成度は 3.5%と目標を達成することはできなかった。引き続き、効果的な ICT 機器の使い方を模索していく。

働き方改革推進プランに関しては、基準 1 を満たす教職員の割合が 59.5%と、目標を上回った。「ゆとりの日」「定時退勤日」を計画通り設定・実施し、会議時間の削減の意識が広がりつつある。しかし、時間に間に合わず業務を家に持ち帰ったり、気持ちにゆとりがもてなくなったりする様子も見られる。あくまで教育活動の充実を目的としていることを念頭におき、勤務時間削減の意識は今後も共有しつつ、業務を適切に精選していくことが求められる。また、資料を事前に配付し、各自確認した上で会議に臨んだり、校務支援システムを活用した情報共有をしたりするなど効率的な業務運営を進めていく必要がある。

大阪市立依羅小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

1—①【安全・安心な教育の推進（人権教育）】

| 年度目標 | 達成状況 |
|--|------|
| 【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 ○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 90%以上にする。（前年度 80%）⇒79% ○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。（前年度 1.7%）⇒7.3% （学校独自） ○学校アンケートにおける「自分にはよいところや得意にしているものがあると思いますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 93%以上にする。（前年度 92%）⇒91% | B |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | | 進捗状況 |
|---|--|------|
| 取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】 学習者用端末を用いたいじめアンケートや相談申告機能、心の天気などで認知したいじめについて解決するようにする。 | | B |
| 指標 ・ いじめアンケートを毎月実施し、いじめの早期発見・解決に努める。 ・ 令和6年度末の学校アンケートにおいて、学校で認知したいじめについて、解決した割合を100%にする。⇒100% | | |
| 取組内容②【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】 8時40分までに登校の確認が取れていない児童の状況を把握し、登校支援をする。 | | A |
| 指標 ・ 8時40分までに登校していない児童を確認し、電話連絡または家庭訪問を行う。 ・ 昨年度の年間18日以上遅刻、30日以上欠席児童の把握をし、学期に1回（合計3回）人権教育部会で、対象児童について情報の交流をし、アセスメントの共通理解を図る。 | | |
| 取組内容③【基本的な方向2、豊かな心の育成】 ・ 自尊感情や他者理解を育む取組を行う。 | | B |
| ・ 各学年で学期に1回（合計3回）以上、自尊感情を育む取組を実践する。また、各学年や各学級で取り組んだ自尊感情を育む取組の内容を各学期ごとにまとめ、共有する。 ・ 学校アンケートにおける「友だちと一緒に勉強や活動をすることは楽しいですか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を96%以上にする。（前年度95%）⇒96% | | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | | |
| ①いじめアンケートを毎月実施したことに加えて、児童の普段の様子を丁寧に観察し、保護者とも連携を図ることで、いじめの早期発見・早期解決につながった。毎月、子どもも大人もいじめについて定期的に考えるきっかけにもなっている。心の天気については、6割 | | |

の児童は定着しているが、タブレットを忘れたり、遅刻で入力タイミングを逃したりするなど、入力率をあげることが難しい現状もある。

②教職員間で連携を図り、電話連絡や家庭訪問等で登校支援を行ってきたが、成果は一進一退である。児童の欠席状況に関しては、毎月の人権教育部会で共有し、必要に応じて教育支援センターやSC、SSWなど関係諸機関に積極的につながることができている。

③学年や学級での取組に加え、学校全体で自分や友だちのいいところを見つける活動や「ありがとう」を伝える活動など、自尊感情を高める取組を行うことができた。

次年度への改善点

①児童の心の変化を感じ取る手立てとして、心の天気の入力を徹底する必要がある。一方で、毎日の流れ作業になったり、入力することが目的となったりしないために、この取組の意義を児童・教職員共に意識していく必要がある。

②家庭環境の把握や児童の実態も考慮し、別室登校や安心できる場所で過ごすなど、様々な選択肢を提示し、一人ひとりの児童と向き合っていく必要があるので、引き続き丁寧な登校支援を進めていく。

③各学年の自尊感情を育む取組を共有することで、実践の幅を広げることができている。今以上に取組を共有し実践に繋げていくために、各学年の取組内容を紙媒体で配ったり、掲示したりするなど、自尊感情を大切にする意識を教職員全体で広めていく。

1—②【安全・安心な教育の推進（生活指導）】

| 年度目標 | 達成状況 |
|--|------|
| 【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 ○小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 95%以上にする。（前年度 94%）⇒ <u>91%</u> （学校独自） ○学校アンケートにおける「自分から進んであいさつできていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 90%以上にする。（前年度 88%）⇒ <u>88%</u> ○小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 94%以上にする。（前年度 94%）⇒ <u>95%</u> | B |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|--|------|
| 取組内容①【基本的な方向 1、安全・安心な教育環境の実現】 「生活ふりかえり週間」を実施し、学校のきまりについて児童に啓発する。 ----- 指標 ・「生活ふりかえり週間」を学期に 1 回（合計 3 回）行う。 ・代表委員会を中心に、「あいさつ」や「名札の着用」、「廊下階段を歩く」などのよびかけ活動を行う。 ・各学年 1 回程度、各月の生活目標の担当を割り振り、目標達成に向けた取組を率先して行う。（発表・ポスター・見守り活動など） | B |
| 取組内容②【基本的な方向 2、豊かな心の育成】 児童会や委員会活動、たてわり班活動などを通して、集団育成に取り組む。 ----- 指標 ・児童集会や学校行事などにおいて、たてわり班活動を年 15 回以上実施する。 ・学校アンケートにおける「友だちと一緒に勉強や活動することは楽しいですか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 96%以上にする。（前年度 95%）⇒ <u>97%</u> | A |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| ①「生活ふりかえり週間」（「あいさつ」「安全歩行」「名札」についての児童の自己評価）を計画的に実施し、その結果の分析を生活指導部会でを行い、指導に生かすことができた。しかし、2 学期実施の生活ふりかえりカードの集計結果に関しては、前年度比、1 学期比ともに数値が下回っている。生活目標は、各学年担当の月を割り振り、達成に向けた取り組みを行った。朝会での発表や放送・teams での動画・児童参加型の掲示物など提示の仕方を工夫して取り組むことで児童が意識する機会を作ることができた。 | |
| ②よさみ子どもフェスティバル（計画や準備を含む）や児童集会を重ねて、異学年交流の機会を得た。児童は楽しい活動を通して、学級や学年とはまたひと味違う貴重な体験をすることができた。校内のいたるところで「～ちゃん」と声をかけ合ったり、一緒に遊んだりする姿を見かける。異学年交流が日常生活につながっている様子がうかがえる。また、ペア学年での活動が清掃週間にも取り入れられ、新鮮な気持ちで清掃する姿も嬉しそうだった。掃除の仕方を、改めて見直すとともに交流を深める機会となった。 | |

| 次年度への改善点 |
|---|
| ①生活ふりかえり週間は実施しているが、まだ廊下を走る児童や名札を付けていない児童が見受けられる。普段から全教職員でより安心・安全な学校づくりをしていくという意識をもって指導をしていく必要がある。 |
| ②暑さや感染症対策で児童集会の実施が難しくなることは今後も予想される。交流しやすい時期に学習（学校探検やアサガオの種プレゼント）や、行事（修学旅行に向けての折り鶴交流・ピースワールドに向けての手話交流）など、わずかな時間でも関わりをもつことができる計画を考える必要がある。児童集会の内容が、たてわり班で集まってはいるが活動そのものは個人となっている場面が見られた。児童集会の内容を吟味し、たてわり班の仲がより深まるような集会となるようにしていく。 |

大阪市立依羅小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

2-①【未来を切り拓く学力・体力の向上（学力）】

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|------|
| 【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○小学校学力経年調査における「学級の友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を45%以上にする。（前年度41%）⇒46% ○小学校学力経年調査における国語及び算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント向上させる。⇒2学年で3ポイント以上の向上 （学校独自） ○学校アンケートにおける「自分から進んで勉強や活動に取り組んでいますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を84%以上にする。（前年度82%）⇒89% | B |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | | 進捗状況 |
|---|--|------|
| 取組内容①【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】 児童の実態を把握し、基礎・基本的な学習内容の定着を図り、児童一人一人に応じた指導や支援を行う。 | | B |
| 指標 ・週に 1 回（年間 25 回以上）、アフタースクール（放課後学習）を実施する。 | | |
| 取組内容②【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】 学力保障部会及び研究推進部を中心に、児童の学力向上に向けた取組や、教職員の授業改善を図る。 | | A |
| 指標 ・小学校学力経年調査等の出題内容、問題傾向及び前年度の結果の分析を行い、教職員の授業改善につなげる。 ・学校アンケートにおける「話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりできていますか。」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 83%以上にする。（前年度 82%）⇒87% ・学校アンケートにおける「学校の授業はよくわかりますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を、92%以上にする。（前年度 91%）⇒94% | | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | | |
| ①アフタースクールは予定通り 25 回以上実施することができた。内容については、学年打ち合わせ等で児童の実態を把握し、「学習の進度」「単元の中でも定着しにくい傾向にある内容」などを考慮して進めた。複数の指導者で一人ひとりに対して丁寧に指導したことで、学習内容の定着を図ることができた。 | | |
| ②学力保障部会や研究推進委員会を中心に算数科や体育科の授業改善を行った。今年度研究として取り組んでいる体育科での学び合いや、その他の教科でも話し合う活動を取り入れたこ | | |

とで、アンケートの数値の向上につながった。また、校外の研修会に参加した教員による伝達研修を実施したり、教科主任が授業を公開したりするなど教職員同士で研鑽し、算数科や体育科以外の教科においても授業改善を図ることができた。さらに、学力向上支援担当が小学校学力経年調査や全国学力・学習状況調査を分析したものを共有し、授業づくりに生かすことができた。児童においても、ノートやプリント、タブレットを使った学習に自ら取り組んでいる姿が見られた。

次年度への改善点

- ①児童の躓きを予想しながらより効果的に課題や内容を考え、個に応じた支援をさらに適切にしていく。アフタースクールでは、児童の意欲を高める有効的な手立てや効果的な指導法などについて、学力保障部会を中心に考えていく。
- ②今後も教職員一人ひとりが積極的に授業改善を図り、研修を受けたり、学んだことを広めたりしていく必要がある。また、基礎・基本の定着を図るための取組や各学年の自主学習ノート・プリントを掲示するコーナーを設けるなどの取組を学校全体で実施していくよう、授業内容以外についても工夫していく必要がある。さらに、今後はメンターメンティ研修会のように若手教員が中堅・ベテラン教員に授業のことを聞いたり、授業を参観したりすることができるような環境づくりを進めていく。

2-②【未来を切り拓く学力・体力の向上（体力）】

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|------|
| <p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）」やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 66%以上に する。（前年度 65%）⇒<u>66%</u></p> <p>（学校独自）</p> <p>○保健指導・委員会活動の取組を通して、学校アンケートにおける「手洗いやうがい をしっかりとできていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を 90%以上 にする。（前年度 89%）⇒<u>91%</u></p> <p>○清掃指導・委員会活動の取組を通して、学校アンケートにおける「きちんとそうじを していますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合において 97%以上を維持す る。（前年度 97%）⇒<u>97%</u></p> | B |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|---|------|
| <p>取組内容①【基本的な方向 5、健やかな体の育成】</p> <p>運動することの楽しさを実感できるように、遊びや運動に関する取組を企画し実施する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校アンケートにおける「運動やスポーツをすることは楽しいですか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を中間評価時よりも向上させる。（前期 92% 後期 90%） ・運動委員会が中心となって、休み時間にできる体を動かす遊びや運動の楽しさを紹介する。 ・運動週間を年 2 回実施し、運動への意欲が高まるように運動週間用のカードを準備したり運動の仕方を発信したりする。 ・校内研究や研修に取り組み、教員の指導力向上を図る。 | B |
| <p>取組内容②【基本的な方向 5、健やかな体の育成】</p> <p>保健委員会の取組を通して、手洗いや健康に関する啓発活動を行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健委員会が中心となって、手洗いの仕方やハンカチ・はなかみの携帯の大切さなどをポスターや動画などで発信する。 ・手洗い週間では、手洗い調査を集計し、結果を保健だよりや掲示物などで周知して意識を高める取組を学期に 1 回行う。 ・発育測定や検診時に、発達段階に合った保健指導を行う。 | B |
| <p>取組内容③【基本的な方向 5、健やかな体の育成】</p> <p>正しい清掃の仕方や用具の使い方に関する指導や啓発活動を行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クリーン委員会が中心となって清掃の手順や用具の扱い方などをポスターや動画などで発信し、正しい清掃の仕方を理解して清掃活動に取り組めるようにする。 ・清掃週間では、掃除のふりかえりカードを活用し、結果を掲示物で周知して意識を高める取組を学期に 1 回行う。 | B |

| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 |
|--|
| <p>①今年度、校内研究教科を体育科とし、体育科の指導法について授業研究に取り組んでいる。また、運動委員会が中心となって運動週間の取組（駆け足・大縄）、外遊びが活発になるように新たに一輪車貸出週間の取組を実施した。</p> <p>②手洗い週間を計画通りに実施し、保健委員会が手洗いアンケートを行ったり、放送で啓発活動を行ったりして取組を進めることができた。また、センサー付き蛇口への変更や、固形石鹸からポンプ式石鹸への変更があった際にも、保健委員会が作成した動画によって、みんなに分かりやすいように周知することができた。</p> <p>③清掃週間を計画通りに実施し、クリーン委員会が清掃の手順や用具の使い方をポスターや動画にまとめたことで、児童が正しい清掃の仕方を理解し実践できた。2学期の清掃週間から、ペア学年での取組をしたが、清掃への意識の向上につながり効果的だったと考えられる。</p> |
| 次年度への改善点 |
| <p>①今年度、2つの運動週間を3学期に実施した。運動することへの意欲を高めるには、取組時期が分散している方がよいと考えられるため、日程の検討をする必要がある。また、運動週間の内容を体育科の授業と関連付けた内容にすることで、児童の運動に対する意識や意欲の向上に繋げることができたと考えられる。</p> <p>②手洗いの習慣化を図るためには、学級単位での日常的な声掛けをする必要がある。手洗い週間以外の時にも、ハンカチの携帯や丁寧な手洗いが習慣化するような児童の意識を変える手立てを考える必要がある。</p> <p>③今年度新たに始めた清掃週間での取組（ペア学年での清掃）は来年度以降、取組内容を児童に定着させていくために、実施方法等の改善点についてふりかえる必要がある。</p> |

大阪市立依羅小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

3 【学びを支える教育環境の充実】

| 年度目標 | 達成状況 |
|--|------|
| <p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の75%以上にする。（ただし、学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く）⇒<u>3.5%</u></p> <p>○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を53%以上にする。（前年度46%）⇒<u>59.5%</u></p> <p>※基準1とは</p> <p>①1か月の時間外勤務時間が45時間を超えないようにすること</p> <p>②1年間の時間外勤務時間が360時間を超えないようにすること</p> <p>（学校独自）</p> <p>○学校アンケートにおける「ICT 機器を使って、楽しい学習に取り組むことができましたか。」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を93%以上にする。（前年度92%）⇒<u>94.3%</u></p> | B |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|---|------|
| 取組内容①【基本的な方向6、教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 児童の ICT 利用を促進し、自主学習の習慣化を目指す。 | B |
| 指標 ・低学年ではデジタル教材や動画教材を利用した学習、中学年は学習者用端末でデジタルドリル（navima 等）を利用した復習、高学年は学習者用端末を利用した学習（情報検索、PowerPoint、SkyMenu 等）を週 3 時間程度実施する。 | |
| 取組内容②【基本的な方向6、教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 学習者用端末を利用した、個別最適な学びの実現に向けた学習方法を共有する。 | B |
| 指標 ・月 1 回の ICT 研修会を実施し、教職員の指導力向上を図る。 | |
| 取組内容③【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 「ゆとりの日」については 18 時までの退勤、「定時退勤日」については 17 時 15 分までの退勤に取り組む。 | B |
| 指標 ・月 3 回の「ゆとりの日」と月 1 回の「定時退勤日」を設定する。 ・「ゆとりの日」「定時退勤日」と通常時の 19 時閉庁となるよう、見通しをもって校務に取り組む。 | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| ①「心の天気」の入力や連絡帳の確認機能の活用により、起動や入力などの基本的な操作が定着し、児童用端末を使うことが習慣化された。また、低学年もデジタルドリルやスタデ | |

ィサブリを用いた学習に取り組むことができた。

②ICT 研修会を予定通り（毎月 1 回）取り組むことができた。各教科・業務における ICT の有効活用方法について情報共有を行い、教職員の指導力向上・業務の効率化を図ることができた。

③「ゆとりの日」、「定時退勤日」を予定通り実施することができた。また、通常時においても多くの教職員は 19 時には退勤することができていた。

次年度への改善点

①児童用端末の持ち帰りに伴い、家庭での効果的な活用方法も考えていく。また、次年度に取組内容を引き継ぎ、系統性のある取組を行っていく必要がある。

②研修の日程や時間を調整し、教員全員が受けられるようにすることで、より効果的に ICT 機器を活用した教育ができると考える。

③退勤時間については守られているものの、教職員の放課後時間を確保する必要があると考える。そのため、次年度の会議の在り方や研修などの設定については精査していく。